

# メッセージ 海と渚

Message Sea and Beach

発行者 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構  
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ペアービル7F  
TEL 03-5800-0130 FAX 03-5800-0131  
E-mail info@umitonagisa.or.jp URL http://www.umitonagisa.or.jp



## ご挨拶

メッセージ第16号(通算104号)をお届けします。

日本でもSDGs(持続可能な開発目標)が盛んに取り上げられるようになってきましたが、環境行政の一元化で、海岸や河川環境保全の現場で水産部局の関与が少なくなりつつあります。また、農水、経産、国交省等の環境保全予算が環境省に一本化される動きもあります。今後、海洋環境問題の解決に向け、現場ではどう対応していくべきでしょうか。

先日、東京大学海洋アライアンスのシンポジウムに参加しました。

ラオスの山奥の村で、日本のODA専門家が、Global Carbonの削減に森林保全が重要と説明しているが、その村にはなんと小学校もない。村人に聞けば、順番として学校を先に作って欲しいと本音を言う。そこには、誰もが反対しない地球環境保全の名の下に振り回されている人々がいる。自然保護区に暮らす先住民が強制排除されるように、地域の人々の自由を束縛し苦しめていることも多い。

環境問題が顕在化すると、生産系部局に覆い被さるよう保全系部局が政府に設置される。後発の保全系部局は、環境をモニターし警告を発することは出来るが、操業差し止めといった規制権限のある生産系部局が本気にならないと話には前に進まない。

「環境保護の大義の下、地域の人々の生活が国家の枠組みに翻弄されて、人々と自然環境との関係がかえって悪化すること=反転」を食い止めるには、「問題を解決しましょう」ではなく、そもそも「問題を作らせない」ことにある(「反転する環境国家」東京大学東洋文化研究所 佐藤仁教授 著)と。

海洋ゴミ問題でも、中央には数字しか集まって来ない。現場にある生の声や数字になりにくい多面的な情報をしっかり把握し、実効性のある環境保全対策が講じられる必要があるだろう。自律分散型ネットワークで地域の各々が考え連携すれば、現実的で最適な解決方法に繋がるのではないだろうか。(専務理事 桑)

## CONTENTS

表紙	1
1. 全国一斉海浜清掃旗揚げ式(秋田県八峰町)	2
2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業	
①平成30年度海浜等清掃活動実施調査報告	3
②平成30年度漁民の森づくり活動等調査報告	6
3. 台南市(中華民国)で行った普及活動の紹介	8
4. 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告	11
5. あとがき	12

# 1. 令和元年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式

日時：令和元年7月13日午前7時～8時 場所：秋田県八峰町岩館第2

主催者：八峰町、(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構、秋田県

「天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」の関連イベントとして令和元年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式を開催しました。令和改元ということで、秋田県豊かな海づくり大会ののぼり旗には、「天皇陛下御即位記念」というタイトルが付いていました。



岩館第2での受付の様子。のぼり旗には「天皇陛下御即位記念」の文字。

当日の天気はくもり。明け方は雨が降っていましたが、朝6時に旗揚げ式会場である岩館海岸海浜プールで、会場設営を行う時間には止んでいました。ただ会場は風が大変強く、沖では波も高かったのですが、浜までは多くの岩場が存在するため、海浜清掃を実施する岸側の海面は穏やかで、予定どおり旗揚げ式を開催できました。

式は予定より10分早い朝6:50に開始されました。参加者は10会場で約220人。

司会は石山正喜秋田県海づくり大会推進室長。式では主催者の森田新一郎八峰町長、齋藤了秋田県農林水産部長、地元の大森建設社長の挨拶の他、東京から就任早々の黒萩真悟水産庁増殖推進部長が駆けつけ祝辞を頂きました。最後に当機構の専務理事から「令和元年度全国一斉海浜清掃の旗揚げ」が宣言されました。

式の後、参加者にはごみ回収袋等の用具が配布され海浜清掃に向かいました。式典の行われた海浜プール周辺の砂浜は、前日の海開き神事を前にビーチクリーナーで清掃されており、漂着ごみは無く、参加者は北側の岩場で清掃を実施しました。



岩場へ向かう参加者



清掃活動する参加者

およそ40分程度清掃活動を行った後、参加者の皆さんは、海浜プール前に再集合し、ワッペン、ピンバッジ、エコバックをもらい解散しました。



参加者に配布したエコバック

(左) 全体図、(右) デザインの拡大図、秋田県海づくり大会のロゴと当機構の「海と渚家族」が描かれている。

回収したごみの量は、10カ所合わせて、可燃ごみ3,770kg、不燃ごみ960kg、産業廃棄物14m<sup>3</sup>でした。

今年の7月は涼しかったのを覚えていらっしゃいますか。令和元年の旗揚げ式は気温20℃未満、風も吹いていたので、上着を着て活動する位、例年になく涼しい旗揚げ式でした。(福田)

## 2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業

### ①平成30年度海浜等清掃活動状況調査報告

平成9年度から行っている海浜等清掃活動実施状況調査の平成30年度報告書が完成しました。  
(なお、ホームページに報告書の全文を掲載しています。<http://www.umitonagisa.or.jp>)

#### 【調査結果の概要】

海浜等清掃活動実施状況調査は、各都道府県に調査票を配布し、その回答を集計する方法で行った。全国47都道府県を対象として調査票を配布し、うち32都道府県から回答があった。

#### 1 活動回数及び活動場所

平成30年には、全国で延べ13,139回の清掃活動が行われ、延べ約93万人が参加した。

清掃活動時期としては、6月、7月、8月が多くこの3ヶ月で全体の約42%にあたる5,512回の活動が行われていた。

参加人数を活動場所別にみると、海岸と河岸での活動が多く、海岸の清掃に参加した人数が約60万人、河岸の清掃に参加した人数が約30万人であり、この2つをあわせると全体の参加人数の約96%を占めていた。

延べ清掃距離を参加人数で除した1人あたりの

清掃距離は、海岸が約28m、河岸が約15m、湖岸が約21mであった。

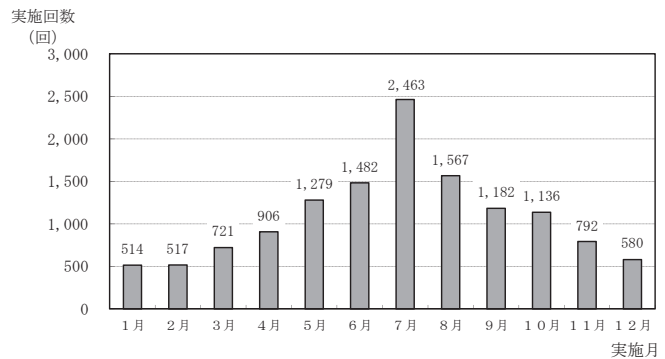


図1 月別実施回数

表1 清掃実施場所別の清掃規模と参加人数

	全体	海岸	河岸	湖岸	海域	
清掃人数(人)	929,916	597,714	296,545	27,609	8,048	
清掃距離	延べ距離(km)	17,369	14,554	2,248	567	—
	実距離(km)	5,136	3,398	1,246	492	—
	面積(km <sup>2</sup> )	3,663	—	—	—	3,663

#### 2 主催者及び参加者

清掃活動の主催者、参加団体ともに行政の割合が多く、主催者としては39.3%、参加団体としては33.1%を占めていた。また、地域関係は主催者として23.8%、参加団体として24.6%を占めており、清掃活動に大きな役割を果たしていた。

参加者の内訳は、成人男子が半数以上の53.9%、成人女子が24.5%、中・高校生が13.1%、小学生以下が8.5%であった。

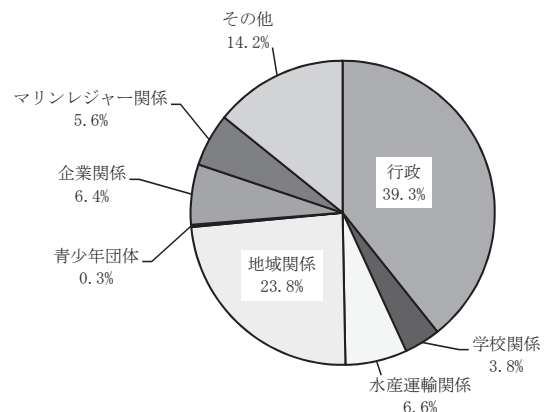


図2 主催者別の実施割合

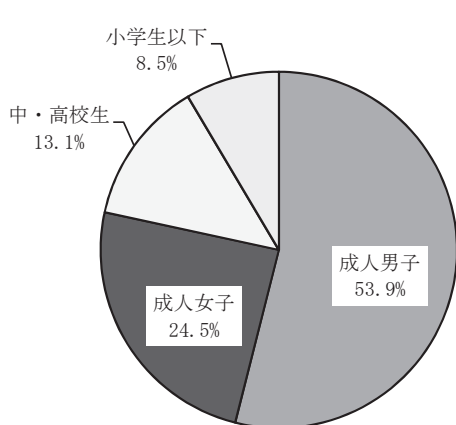


図3 参加団体別実施割合

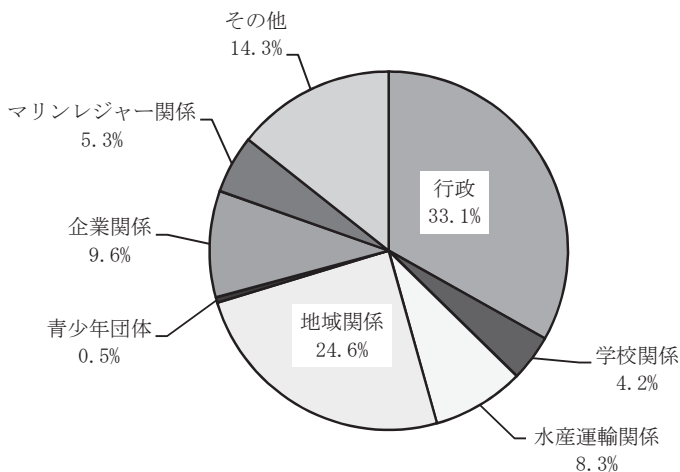


図4 参加者の属性

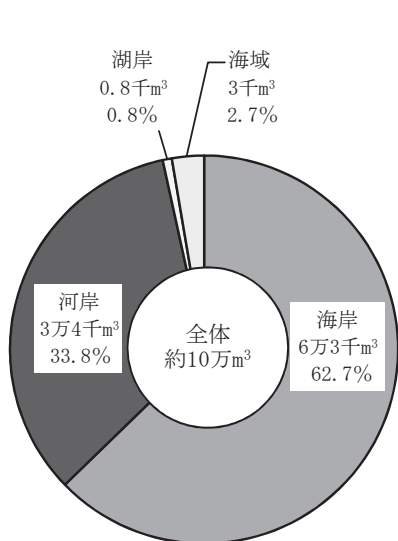
### 3 ごみ回収量

ごみの回収量は、全体で約10万 $m^3$ (ごみの種類を把握している場合、把握していない場合の合計値)であった。

場所別では、海岸が約6万3千 $m^3$ で最も多く、次いで河岸が約3万4千 $m^3$ となっており、この二つを合わせると全体の約97%を占めていた。

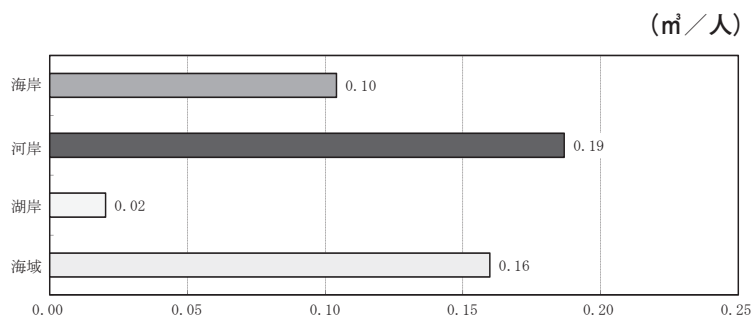
参加者1人あたりのごみ回収量は、河岸が最も多く0.19 $m^3$ 、次いで海域が0.16 $m^3$ 、海岸が0.10 $m^3$ となっており、最も少なかった湖岸は0.02 $m^3$ であった。

延べ清掃距離あたりのごみ回収量は、河岸が16 $m^3/km$ で最も多かった



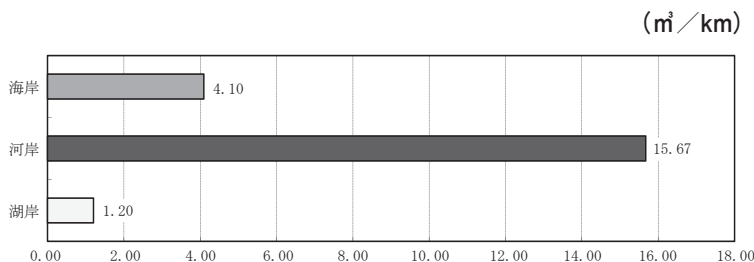
注:各値は四捨五入してあるため、合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。

図5 ごみ回収量とその割合



注:場所別の参加人数及びごみ回収量の双方に回答があるデータから算出した。

図6 参加者1人あたりのごみ回収量



注:場所別の参加人数及びごみ回収量の双方に回答があるデータから算出した。

図7 延べ清掃距離あたりのごみ回収量

## 4 ごみの種類

清掃を実施した場所別のごみ回収量及びその種類を表2に示す。なお、ここでの回収量はごみの種類を把握している場合のみの集計値である。

全体のごみ量に占める人工物と自然物の割合はおおむね4:6で、内訳をみると、人工物では材木、木片等が多く(人工物その他を除く)、自然物では流木が多かった。

人工物と自然物の割合を場所別に見ると、海岸で約6:4、河岸で約1:9、湖岸で約10:0、海域では約5:5となっていた。

表2 種類別のゴミ回収量

単位:m

種類	全体	海岸	河岸	湖岸	海域
布・紙	34 (0.5%)	28 (0.5%)	3 (0.2%)	2 (25.6%)	0 (0.0%)
材木、木片等	346 (4.8%)	291 (5.6%)	53 (3.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
ペットボトル	222 (3.1%)	183 (3.5%)	19 (1.1%)	1 (11.7%)	19 (8.6%)
弁当箱、トレイ	31 (0.4%)	30 (0.6%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ロープ、網	209 (2.9%)	111 (2.1%)	6 (0.3%)	0 (0.0%)	92 (42.7%)
缶類	147 (2.0%)	138 (2.7%)	9 (0.5%)	0 (2.3%)	0 (0.0%)
ガラス	26 (0.4%)	23 (0.4%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
人工物その他	2,178 (30.3%)	2,078 (40.0%)	92 (5.2%)	5 (60.4%)	3 (1.4%)
人工物計	3,192 (44.4%)	2,883 (55.5%)	186 (10.5%)	9 (100.0%)	115 (53.1%)
流木	3,759 (52.3%)	2,235 (43.0%)	1,435 (81.2%)	0 (0.0%)	89 (41.3%)
海草	57 (0.8%)	44 (0.8%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (5.6%)
自然物その他	182 (2.5%)	36 (0.7%)	146 (8.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
自然物計	3,997 (55.6%)	2,315 (44.5%)	1,581 (89.5%)	0 (0.0%)	101 (46.9%)
合計	7,189 (100.0%)	5,198 (100.0%)	1,767 (100.0%)	9 (100.0%)	216 (100.0%)

注1:各欄の値は四捨五入してあるため、人工物計・自然物計・合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。

注2:ここでのごみ回収量はごみの種類を把握している場合のみの集計値である。

## 平成30年度海浜清掃等の美化活動事例調査報告書(抄)

都道府県から提出された海浜等清掃活動実施状況調査報告にある清掃活動参加団体には、主催者及び実施主体があり、これらは以下のア〜クに分類されている。構成は図8のとおりである。団体の分類は地域関係団体(27%)、企業関係(20%)、水産運輸関係(16%)、行政(14%)の順に多かった。

ア	行政(国、都道府県、市町村、外郭団体、出先機関等)
イ	学校関係(小・中・高校、PTA等)
ウ	水産運輸関係(漁協、漁連、漁港・港湾関係)
エ	地域関係(自治会、町内会、老人会、子供会、婦人会、商工会、観光組合、海水浴場組合等)
オ	青少年団体(ボーイスカウト、スポーツ少年団等)
カ	企業関係(電力会社、製造業、金融、サービス業等)
キ	マリンレジャー関係(釣り、ヨット、サーフィンの団体等)
ク	その他(上記以外の各団体)

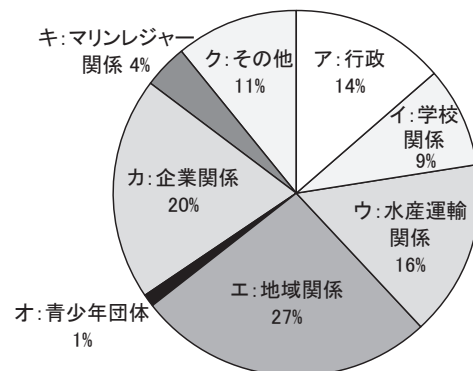


図8 清掃活動実施団体の構成(主催者を含む)

## ②平成30年度漁民の森づくり活動等調査

平成13年度から行っている漁民の森づくり活動等調査の平成30年度報告書が完成しました。報告書の全文はホームページに掲載しています。<http://www.umitonagisa.or.jp>

### 【調査結果の概要】

平成30年度のアンケート結果から、124か所の回答を得て、植樹活動では60種類程度（針葉樹10種以上を含む）の樹種が使用されていた。参加人数はのべ1万人以上、作業本数は4万7千本程度であった（下刈りなど含む）。表1から作業別でみると、植付けと答えた回答のうち、北海道からの回答が65%程度を占めていた。下刈りは北陸・中部・近畿、九州、地ごしらえは北海道に多かった。その他にはチップ敷き、食害対策用の柵の設置があった。

昨年と比較すると、樹種数はあまり変わらないが、参加人数は7千人程度、作業（植樹）本数は1万本程度ともに減少した。それぞれの植樹活動の場所については報告書巻末の地図及び表を参照されたい。

### 1 漁民の森づくり活動で使用された樹種

活動に使用された樹種上位10樹種について図1に示す。

今年度は昨年度に引き続きミズナラ（23か所）が最も多かった。ミズナラは活動数の多い北海道で多く利用される樹種（ミズナラは北海道で22か所）で、その他の樹種は、広範囲で使用されている樹種である。

各地域で使用されている樹種について図2に示す。

北海道ではミズナラが最も多く、昨年度と同じ22か所だった。本州以南でみると東北・関東ではブナ、クリ、ナラ、北陸・中部・関西ではコナラ、ブナ、中国・四国ではヤマザクラ、イタヤカエデ、九州ではヤマザクラ、クスギが多く使用されているようである。使用された樹種は北海道33種、東北・関東17種、北陸・中部・近畿19種、中国・四国12種、九州16種であった。

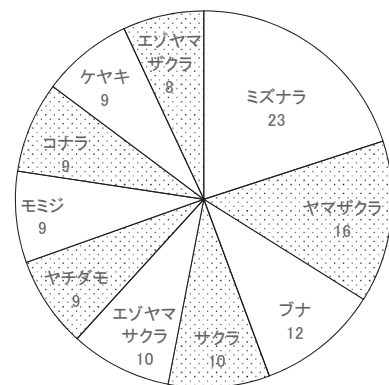


図1 全国の植樹活動で多く使用されている上位10樹種 (活動数であって、本数ではない)

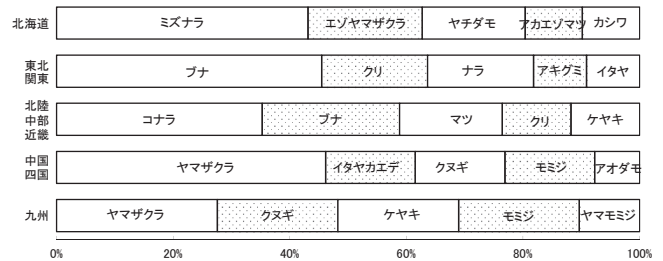


図2 各地方で植樹活動で使用される上位5樹種 (活動数であって、本数ではない)

### 2 漁民の森づくり参加者の漁業種類 (複数回答)

図3に漁民の森づくり参加者の漁業種類の割合について示す。

活動に参加者した漁業者の漁業種類で見ると、漁業種類が一種の場合と複数の場合の割合は3:7であった。図3から、参加者の漁業種類の割合をみると、定置・建網18%、次いで、刺網・流し網、延縄・潜水・船曳、採藻が10~13%であった。魚類養殖、貝類養殖、藻類養殖を合計した養殖業全体だと16%を占めていた。

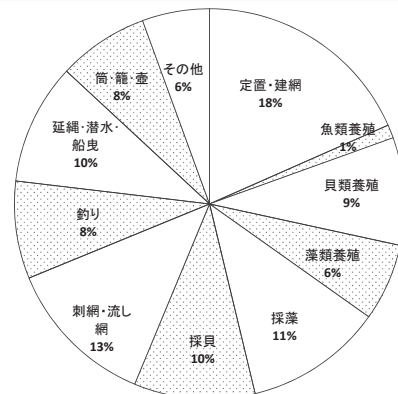


図3 森づくり活動参加者の漁業種類 (複数回答)

### 3 平成31年度以降の漁民の森づくりについて

来年度以降の予定を図4で見ると、「植樹の他、下刈り等管理にも力を入れていく」が最も多く34%、「植樹はほぼ済んだので、下刈り等管理に力を入れていく」を加えると60%以上を占め、植樹活動内容の中心が管理作業に移行していると考えられる。その他では、下刈り、植樹を検討中といった回答があった。

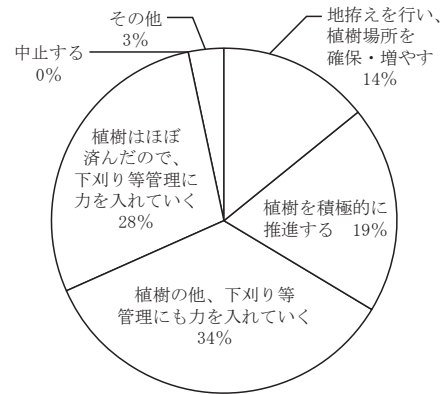


図4 平成31年度以降の漁民の森づくり作業内容(予定)について

### 4 植樹の他に取り組んでいる沿岸環境保全活動について

植樹の他に取り組んでいる沿岸環境保全活動について質問したところ、「その他」が18%と最も多く、活動としては海浜清掃をあげる団体が多かった。次

に「覆砂や海底耕耘をしている」が13%、「食害等の獣害対策に取り組んでいる」が11%であった。

表1 植樹の他に取り組んでいる沿岸環境保全活動について伺います。(複数回答含む)。

植樹地や沿岸で環境教育を実施している。	15%
食害等の獣害対策に取り組んでいる。	18%
透明度などモニタリング調査を実施している。	16%
フルボ酸鉄やケイ素などの溶出材を撒いている。	0%
覆砂や海底耕耘をしている。	21%
その他	30%

### 5 過去に植樹して作業を完了した植樹地の活用について

作業を完了した植樹地の活用について質問したところ、「その他」が31%と最も多く、防風林・防砂林としての活用や、特に活用はしていないが毎年手入れをしているといった意見があった。次いで「獣害の影

響で植林木が破壊された」17%、「確認したことがない」が17%、「自然災害の影響で植林木が破壊された」が14%であった。

表2 下刈り等で出た草・木・枝はどのように取り扱っていますか。(複数回答)

環境教育のフィールドとして活用している。	9%
立木調査など森林環境のモニタリング調査を実施している。	12%
自然災害の影響で植林木が破壊された。	14%
獣害の影響で植林木が破壊された。	17%
確認したことがない。	17%
その他	31%

### 6 植樹場所と海岸までの距離

植樹場所と海岸の距離を見ると近い所では1km未満、最も遠い場所は海岸から170kmという回答があった。40km以上離れている活動が16%、1km

未満の活動が5%、多くは海岸からの距離がおおよそ1kmから15kmの範囲で行なわれていた。

## 3. 台南市(中華民国)で行った普及活動の紹介

台南市は台湾島の南部で、高雄の北に位置する。首都台北からは東海道新幹線の車両技術が導入された台湾高速鉄道(台湾新幹線)で2時間程かかる。日本でいえば東京から新幹線のぞみ号に乗って名古屋を過ぎたくらいの距離感である。車両は色彩以外東海道新幹線と変わらない。

歴史が好きな方には鄭成功祖廟がある市と言った方が分かりやすいだろうか。日本統治前の台湾島の中心は台南市など南部にあったとされ、台南地区は鄭成功の重要な拠点であった。鄭成功は、母親が長崎県平戸の人で、幼年期を平戸で過ごした。日本にゆかりのある人である。

### <台南市のカキ養殖と廃棄物>

台南市のカキ養殖は7月～9月が禁止期間、10月からの作業に備え、5月に筏の数を登録させ、6月の回収時に数を確認。流出などで登録時と筏数が合わない場合は罰金を取っている。

台南市のカキ養殖は1年収穫で、筏は1年で廃棄されるため、登録時と回収時の確認で筏流出及び廃棄処理数の管理ができる。管理者は台南市漁港及近海管理署が行う。例年9000基の筏が使用されるらしい。フロートの寿命は3年で毎年1/3(4万個)が廃棄される。台南市では30元(約100円)/個の奨励金で廃フロートを漁業者から回収しているが、回収率は20～30%だという。

以前は野焼き処理、その後溶剤による減容処理など試みたが費用が高く取り止めた。現在は回収したフロートを台北市の処理会社へ輸送しているが、その送料を漁業者が、処理費用を台南市が負担している。台南市としては無期限の税負担はできないので、別の処理対策を探しているということであった。

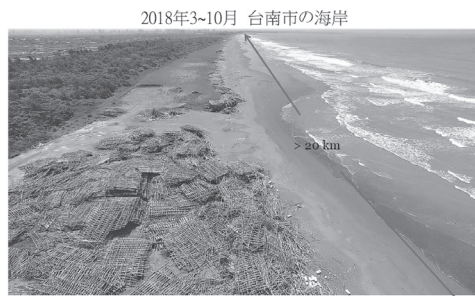
筏については、使用済み筏に使用者の名前を書いた旗を付けるよう義務化して、違反者には罰金1万元(3万～4万円)/台としたところ、使用済み筏が90%回収された。回収量が多いので、筏の処理にも困っている。



処理のために旗を立てた筏  
(郭柏秀氏提供)



カキ収穫の様子 (郭柏秀氏提供)



処理待ちの筏 (郭柏秀氏提供)

### <台南市の対策>

これまで台南市では、PE製の樽の再利用や、PP製フロートの開発、発泡スチロールの粒子が剥がれて流出しないようにフロートに緑色のペイント塗装をしたり、網を被せるような対策をとってきた。



PE製の樽



PE製の樽を使用した筏



しかしこれらの商品はコスト高や低性能等の理由で普及せず、台南市としては発泡スチロールを使用禁止にしたいが、漁業者が受け入れないことから、処理を適正化する方向で話し合いがもたれ、台南市は台湾成功大学海洋技術事務所郭柏秀氏に新しい処理方法の調査を依頼した。



PP製のフロート



粒子が流出ないように緑色のペイントを塗ったフロート及び網を被せたフロート

### <台南市との接触>

平成30年5月にJEAN小島代表より、台湾成功大学院生の郭柏秀氏から『台南市はカキ養殖が盛んだが、生簀(竹製)の浮体に使用している発泡スチロール製フロートの処理に困っており、機構が取り組んできた【発泡スチロール製フロートの処理事業】に興味があるとメールが届いた。年が明けるとJEAN鹿児島事務局の藤枝鹿児島大学教授から郭柏秀氏と機構の事務所訪問の話が何度かあり、令和元年5月に両名が訪ねてきた。打合せでは、水産庁予算により実施したこと、ペレット燃料化の仕組みは溶剤減容処理にも取り組んだことも含め15年かかった技術であること、処理効率などを説明した。



筏設置作業の様子(郭柏秀氏提供)

### <渡台、現地視察>

当機構の開発した処理方法が台南市の問題解決へ有効であるとして、台南市漁港及近海管理署長から招請があったので、現在ペレット化事業に取り組んでいる(株)西原資源及び藤枝教授と共に訪問した。

台南市で使用されている筏は8m×12m、筏1台は太い竹9本、細い竹17本から構成されている。フロートの形は日本と異なり、30cm×45cm×95cmの直方体で容積では日本の半分程度の大きさで、設置作業の右の写真のように台南市では筏を構成する竹の間にはめ込む方法で使用す



使用済みカキ養殖用フロート



現地では採苗器のカキ殻に穴をあけて輪っかを作って垂下する



カキ殻の山、海は台湾海峡、拡大すると2隻航行しているのが見える



手前は筏用アンカー、奥の白いものはカキ養殖用フロート

る。養殖方法は垂下式だがプラスチック製のワイヤーに稚カキがついたカキ殻に穴をあけて吊り下げる。稚カキを付着させる基盤を採苗器(コレクター)といい、日本ではホタテ貝殻、台南市ではカキ殻を使用する。

現地視察は漁具が堆積してある場所や漁期に筏を浮かべる河口域及び海域を回った。海域は日本のシーレーンである台湾海峡に面している。沖を見るとタンカー船が絶え間なく航行していた。

#### <発泡スチロールペレット燃料化の紹介>

台南市安平区にある台南市漁港及近海管理署事務所で講演は行われた。まず、1階で台南市からこれまでの取り組みについて説明があり、その後、2階の大会議室で漁業者、資材メーカーなど40名ほどが集合して講演会が開催された。始めに台南市漁港及近海管理署長から現在の台南市の養殖資材について、今年10月から網で包まれていない発泡スチロール製フロートを使用している場合は罰金を取る予定だと説明があった。日本でいえば、カバーを付けていない発泡スチロール製フロートを使用すれば罰金を取るということである。流出や崩壊などで漁期の最初と最後の申請数が異なった場合の対応など、漁具を管理する方法として参考になる点はあると思った。続いて当機構の発表、藤枝教授の発表があった。

機構の説明に対し、処理装置の値段やペレットの性状検査などの質問があった。値段は目安として伝えた。ペレット性状については実際に台南市で燃焼させ中華民国の環境規制に準拠しているか試験をしたいのでサンプル提供が依頼され、西原資源は送付すると回答した。



台南市漁港及近海管理所



管理所 1 階のカキ養殖資材展示場



講演会の様子

#### <振り返って：ごみ問題は環境問題ではなく産業問題、生活問題>

日本国の補助事業成果が国外でも役立つならありがたいが、国内でももう少し関心を持ってほしい。台南市はフロートを処理場まで持ってきた漁業者に100円/個を渡して回収し、処理方法を探すため調査員を国外まで派遣している。前述の漁期の最初と最後の筏数の申請には、処理を後回しにさせないという意味だ。日本でも処理を後回しにさせない漁具管理まで行政が関与しなければ、今の海洋プラスチック問題に対処できないと思う。

SDGsの「目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」の中で具体的な目標(ターゲット)の1番目に海洋ごみや富栄養化などの海洋汚染防止が掲げられている。水産を学んだ人で海洋ごみに関心を持って、漁具処理に関心を持つ人は皆無だろう。しかし水産業が海洋ごみの原因産業とならないように対策を執ることは、資源管理同様水産振興として重要である。

行政(漁港及近海管理所)、漁業団体、漁業者、フロート業者がONE TEAMで処理対策に取り組もうとしている姿を見ると、大事な地域産業であると痛感した。日本も漁業者が効率よく処理できる装置など環境を整え、処理を促す政策を立案するなど水産部局が積極的に関与した方が良いと思う。(福田)

# 4. 令和元年度 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告

## 未来に残したい、美しい浜辺・青い海

\*全国から集まった海浜清掃活動報告の一部をご紹介します。

<http://www.umitonagisa.or.jp/html/genchihoukoku.html>

皆さまからの海の羽根募金による寄付や会費に加え、日本財団からも助成金をいただきました。この資金で海と渚の環境美化運動の全国的な展開をより効率的に推進するための清掃資材(ゴミ袋)を下表のとおり、漁協、地方自治体、NPO等に配布いたしました。今年は海洋プラスチックごみが注目され、海浜清掃の役割がますます高まっていくものと思われます。これらの活動グループからの報告が逐次当機構に寄せられています。これまでのホームページの掲載に加え、即時性を高めるため、ツイッターにも掲載するようにいたしました。また、ハッシュタグを付けて地元の方、海外の方にも容易に見つけていただけるように工夫しました。どうぞ、ホームページだけでなくツイッターでもご覧になって下さい。

Twitter <https://twitter.com/umitonagisa>

【清掃資材(ゴミ袋)配布実績】

(単位:万枚)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度	
				大	小	大	小
自然物ゴミ袋	36(15)	34(8)	32(8)	33(8)	1.7	31(7.5)	0.7
人工物ゴミ袋	26	25	21	22	1.8	20	0.8
計	62(15)	59(8)	53(8)	55(8)	3.5	51(7.5)	1.5

注: ( )内の数字はJFマリンバンクからの提供枚数です。

### ■ 北海道

#### ふるさとクリーン作戦 実行委員会

令和元年5月12日

活動場所 国道336号広尾町黄金  
道路沿い海岸

参加者 183人

ごみの量 自然物ゴミ 180袋

人工物ゴミ 180袋

その他 コンテナ1台



### ■ 秋田県

#### 三種町商工観光交流課

令和元年6月11日

三種町建設業協会クリーンアップ

令和元年6月25日

町・小中学校合同クリーンアップ

活動場所 釜谷浜海水浴場

参加者 計400名(建設業協会:約  
30名、町:約370名)

ごみの量 自然物ゴミ 約700袋

人工物ゴミ 約400袋

その他 流木・海岸漂着  
物等

コメント 三種町釜谷浜では、毎年7月に海開きを行い、町の最大イベントであるサンドクラフトが開催される。海開きを前に、町民自らの手で海岸をきれいにしようという事業。まず町建設業協会が重機を使用して巨大な流木等を含めたごみを収集、その後日、町民(各協力団体、小中学生等)による大規模クリーンアップを行う。



### ■ 茨城県

#### 大洗町

令和元年9月12日

活動場所 大洗サンビーチ及び大洗  
海岸

参加者 1,000人

ごみの量 自然物ゴミ 1,000袋

人工物ゴミ 1,000袋

コメント 毎年7月に実施している町内の一斉清掃は荒天のため中止となったが、茨城国体を前にビーチバレーの会場となる大洗サンビーチを中心に清掃活動を実施し、茨城国体に向けて来場者をおもてなしする素晴らしい環境が整っただけでなく、海辺の環境美化に対する意識が向上した。



### ■ 東京都

#### 小笠原母島漁業協同組合

令和元年5月26、27日、6月1、2日

活動場所 母島及び属島(向島、蓬  
萊根海岸、大崩湾、平島)

参加者 延べ30人

ごみの量 自然物ゴミ 100袋

人工物ゴミ 100袋

コメント 外国船(中国、韓国)のゴミも多い。継続してクリーンアップ活動を行っていきたい。



## ■ 愛知県

### 蒲郡 530 運動推進協議会

令和元年5月26日

活動場所 蒲郡市内5ヶ所

- ①海陽ヨットハーバー周辺
- ②竹島園地・市民会館周辺
- ③浜町
- ④春日浦海岸・北浜海岸
- ⑤西浦町シーサイドロード

参加者 1,089人

ごみの量 自然物ゴミ 500袋

人工物ゴミ 500袋

コメント 市内の海岸5ヶ所の清掃活動で市外からの参加者も多く、大きな行事となっており、参加者からも好評を得ている。最近では海岸が以前よりもきれいだという声も耳にする。



## ■ 岡山県

### 岡山県漁業協同組合連合会

令和元年6月~7月

活動場所 岡山県地先海面・海岸  
80km

参加者 1,450人

ごみの量 自然物ゴミ 約9,300袋

人工物ゴミ 約2,120袋

コメント ・豪雨被害のあった昨年度に比べると、ゴミの量は少なかった。

・更に大きいサイズの袋があれば、より作業がしやすい。

・今年度は漁業関係者だけでなく、地元自治会や中学生も参加してくれた。

この輪を広げていきたい。



## ■ 福岡県

### ラブアース実行委員会 (岡垣町)

令和元年6月2日

活動場所 町内の海岸線一帯

参加者 1,102人

ごみの量 7,930kg(自然物・人工物の区別なし)

コメント 町の海岸線は潮風を感じながらサイクリングや散歩が楽しめるほか、サーフィンなどのマリンスポーツも楽しめ、年間を通して多くの人たちが訪れる。また、県下では数少ないア

カウミガメが産卵に訪れる場所でもある。この海岸の環境を守るため、毎年6月の第1週目の日曜日にボランティアによる海岸線の一斉清掃「ラブアース・クリーンアップ」を実施している。



## ■ 佐賀県

### 仮屋漁業協同組合

令和元年7月13日

活動場所 玄海沿岸域海浜

参加者 74人

ごみの量 自然物ゴミ 120袋

人工物ゴミ 10袋

コメント 玄海における廃棄物による漁業被害及び漁場の効用低下を抑制するため、漁業者自らが廃棄物の除去・回収処理をおこない、漁場の環境保全を図った。



## あ と が き

今秋は「即位礼正殿の儀」、「祝賀御列の儀」という御世代わりだけの特別な行事の他、ラグビーW杯で列島中が熱狂した歴史に残る秋かもしれません。パレードで雅子皇后が涙を拭くようなしぐさは大変印象的でした。今夏は酷暑の印象ですが、7月の旗揚げ式は肌寒い程でした。来年1月当機構の事業内

容を台湾政府に紹介することになったと台南市から連絡がありました。今後の動きが楽しみです。今号からSDGsのロゴ「14海の豊かさを守ろう」と「15陸の豊かさを守ろう」を使用します。引き続き当機構の活動にご賛同頂き、ご支援をお願い申し上げます。(福田)

## 鴨川シーワールド 入園割引券

通常入園料金 割引料金

大人(高校生以上) ¥3,000 ▶ ¥2,700

小人(小中学生) ¥1,800 ▶ ¥1,620

幼児(4歳以上) ¥1,200 ▶ ¥1,080

シルバー(60歳以上) 通常料金通り¥2,400

本券を切り取り、チケットをお求めの際にご提出下さい。

2020年6月30日まで有効

- ・本券1枚で5名様までご利用できます
- ・他の割引券との併用はできません
- ・クーポン券、団体扱いには適用しません
- ・本券での受付時間は閉館1時間前迄です

公益財団法人  
海と渚環境美化・油濁対策機構

14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう

